令和8年度　学校研究全体計画

１．研究主題

自律した学び手の育成
～自ら学び力が付く授業づくり～

２．主題設定の理由

昨年度は，研究主題を「自律した学び手の育成」、副題を「～児童が主体的に学習に取り組む授業づくりを通して～」とし，児童が主体となる授業を目指して研究を続けてきた。個別最適な学びと協働的な学びの一体的に充実した授業づくりのために，「つけたい力を明確にした単元構想」，「学習形態を判断・選択し，自己調整しながら学びを進めるための工夫」，「学びの深まりの実感や次時へのつながりが意識できる振り返りの充実」の３つの視点をもち、とくに「学びの深まりの実感や次時へのつながりが意識できる振り返りの充実」を中心に研究を進めてきた。

「つけたい力を明確にした単元構想」では，単元構想シートを作成することで単元を見通したつけたい力を明確にし、児童に委ねる場面を★マークで表すことで授業デザイン力の向上にもつながった。単元の初めに児童と学習計画表を共有することで、児童も見通しをもって学習に取り組むことができた。ゴールの姿をモデルの文や動画で示し、児童と共有することでつけたい力を明確にすることができた。

「学習形態を判断・選択し、自己調整をしながら学び進めるための工夫」では、既習掲示やヒント動画、ヒントカードなど自ら学びに向かえるよう環境を整備したり、板書や学習端末で誰がどのようなことについて調べたり考えたりしているか他者参照できるようにしたりすることで、意欲的に学習する児童が増えた。見方考え方を働かせるための具体物による算数的活動や国語の並行読書マトリクス表や社会の資料掲示など学習環境を整えたことも児童の意欲につながった。２学期からは児童の考えの深まりに課題を感じたので、考えの再構築ができるように教員が対話モデルを作成し、児童と共有することで対話の質も高まった。

「学びの深まりの実感や次時へのつながりが意識できる振り返りの充実」では，全校で視点を再確認し、振り返りのモデルを示すことで振り返りの質が向上した。教師がより力が付くためにはどうしたらいいかコメントを書くことで、自分の学びについて深く振り返ることができ，学びの積み重ね，自己調整力の育成につながった。

２年間の研究を重ねることで教材研究の充実が図られ、主体的に学習に向かう児童が多くなった。そこで今年度は，学力向上と連携し本校の弱い分野を共通理解し重点単元とし、確実な力が付く授業づくりを目指していきたい。学力テストの結果をふまえ、国語科では「読むこと」、算数科では「図形」を軸にし、つけたい力を実力として着実に身に付けさせたい。

３．授業でめざす児童の姿

本校の目指す児童の姿「じ・も・と」で育つ　あらやの子

①　じ　自分で考え行動する

＊　自律した学びができる子

自分から「やってみたい」と思い自分から学びに向かう姿
誰と学ぶか，どこで学ぶか，自分で判断し，自己調整しながら学習を進めている姿

②　も　もっと良くなろうとする

＊　課題発見力・解決力・探求心のある子

＊　学びの自覚化・学びの楽しさを味わえる子



「どうしてこうなるのだろう」「もっと知りたい，解いてみたい」と問いを持ち探求する姿　できた・分かったと実感している，次はこうしたいと次の学びにつなげている姿

③　と　共に学ぶ　思いやる

＊　比較・多様な考えの受容，発信・表現・対話力のある子

自分の意見や考えを話したい，伝えたい

友だちの考えを聞いてみたい，考えと比べてみたいと自分から関わる姿

４．研究の内容・方法

（１）カリキュラムマネジメントの確立

カリキュラムマップを基に，身に付いた資質・能力を他教科で活用できるように学習と学習を関連付け，学習効果を高めるという視点で教科横断的な学習につなげていく。

（２）個別最適な学びと協働的な学びの一体的な授業づくり

①　つけたい力を明確にした単元構想

- 指導事項を身に付けた児童の姿を具体的にイメージする。
- ゴールに向かう単元構想と，系統的な学びを生かした授業デザインをする。
- 好奇心を生む学びの必然性のある課題設定をする。
- 既習を活用しながら学習を積み上げるために，系統的な学びを重視する。

②　一人一人の学びを確かなものにするための見取りと適切な指導・支援

- 具体的な児童の姿を想像し、子どもの状況に応じた関わりができるよう手立てを充実する。
- 多様な考えに触れ、他者との対話や協働を通した考えの再構築や学びのし学びの充実をはかる。
- 学習形態を判断･選択し､自己調整しながら学びを促す働きかけや手立てを工夫する。(学習環境デザイン)
- 意図的･計画的な情報活用能力の育成と学習端末の思考ツールとしての効果的な活用。

③　学びの深まりの実感や次時へのつながりが意識できる振り返りの充実

- 授業終末の振り返りを大切にし，今日できたこと・できるようになった事，次の時間のめあて等を児童自身がもち，進めていけるようにする。
- 次時や他教科､生活場面などへの学びの繋がりや活用場面の実感をもてるようにする。

５．検証

○定期的に検証し、指導に活かす。

- アンケート(児童・教員)
- 授業振り返りシート(教員)
- ノートや成果物等(児童)

６．学習を支える取組

★基礎基本の確実な習得

（１）個の特性・学習進度・到達度に応じた指導方法や教材等の工夫

（２）コミュニケーション力・聞き合う力・対話力等の育成の更なる充実を図る

（３）さわやかタイムによる朝学習

- 対話トレーニング・書くトレーニング・ＧＩＧＡ

★家庭学習

（１）個に応じた家庭学習の量と質の向上

（２）自主的・計画的な学習

（３）小中連携による家庭学習強化週間の実施

- 家庭学習の手引き「家庭学習のすすめ」を使い、家庭学習の取り組み方を指導する。

・　家庭学習強化週間を行う。家庭学習強化週間の際に、チェックカードを保護者に見てもらい、連携をはかる。(年３回)

７．学びを支える人間関係作り

（１）生徒指導の４つの視点を生かした温かな集団作り

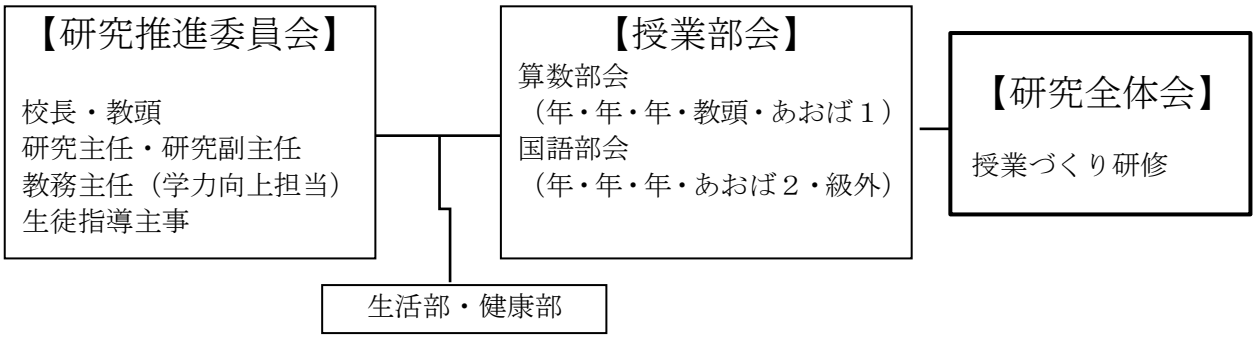
（２）学校行事や学級活動と関連したキャリア教育の推進
- 学校行事や学習活動と関連させ、めあてと振り返りによる自己評価の充実
- 自己の生き方、在り方を考えられる場や活動の工夫
- 話し合い活動を通した主体的な意思決定や合意形成による活動の充実

（３）児童会活動や特別活動の活性化による自治的・主体的な活動の充実
- 自分たちの学校生活をよりよくするために話し合い、企画・運営する。
- 縦割りの「ポプラチーム」を決め、ポプラ交流会を行う。全学年がゆったりとした気持ちで楽しめる活動を６年生が選んだり、事後の振り返りを大切にしたりと、コミュニケーションに重点をおいて活動する。

（４）異学年交流による対話力・コミュ力の育成
- 学習の成果を異学年に発表する。

（５）道徳教育の充実
- 道徳的価値の向上と児童の言動の変容につながる心を育成する。

８．研究組織



９．研究方法

・研究内容や方向性、授業づくりについて共通理解を図る。
・定期的に授業づくり研修会を開き、全員で教材研究を行い、授業づくり向上に努める。
・講師を招聘し、共通理解を図り、研修する。
・研究授業では、授業の視点に応じた意見や感想を持ち、整理会等を行い、成果や課題、改善点等を出し合い、共通実践を決め授業力向上に努める。

10. 研究の全体構想

学校スローガン　　【子どもが主役の学校】

学校教育目標「仲間と共によりよい社会を切り拓く資質・能力の確実な育成」

授業で目指す児童の姿

＊ 自律した学びができる子(学びに向かうあらやの子)
＊ 課題発見力･解決力･探求心のある子
＊ 学びの自覚化･学びの楽しさを味わえる子
＊ 比較･多様な考えの受容，発信･表現･対話力のある子

研究主題

自律した学び手の育成
～自ら学び、力が付く授業づくり～

★ カリキュラムマネジメントの確立（カリキュラムマップ）

○ 身に付いた資質･能力を他教科で活用できるように学習と学習を関連付け，学習効果を高めるという視点で教科横断的な学習

★ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な授業づくり

視点１　つけたい力を明確にした単元構想

○ 指導事項を身に付けた児童の姿を具体的にイメージ
○ ゴールに向かう単元構想と，系統的な学びを生かした授業デザイン
○ 好奇心を生む学びの必然性のある課題設定
○ 既習を活用しながら学習を積み上げるために，系統的な学びの重視

視点２　一人一人の学びを確かなものにするための見取りと適切な指導・支援

○ 具体的な児童の姿を想像し、子どもの状況に応じた関わりができるよう手立ての充実。
○ 多様な考えに触れ、他者との対話や協働を通した考えの再構築や学びのし学びの充実。
○ 学習形態を判断・選択し、自己調整しながら学びを促す働きかけや手立てを工夫。
○ 意図的・計画的な情報活用能力の育成と学習端末の思考ツールとしての効果的な活用。



視点３　学びの深まりの実感や次時への繋がりが意識できる振り返りの充実

○ 振り返りによる学びの実感と次時への繋がり(自己調整力の育成)

学びを支える人間関係づくり･取組

★ 生徒指導の４つの視点を生かした温かな集団作り
★ 道徳教育の充実
★ 学校行事や学習活動と関連したキャリア教育の推進
★ 児童会活動や特別活動の活性化による自治的・主体的な活動の充実
★ 異学年交流による対話力・コミュ力の育成
★ 基礎基本の確実な習得
・個の特性、学習進度、到達度に応じた指導方法や教材等の工夫
・さわやかタイムによる朝学習
・コミュニケーション力・聞き合う力・対話力等の育成
・自主的・計画的な学習・小中連携による家庭学習強化週間の実施（年３回）

11. 校内研修計画と経過

学期	月	内容	児童	その他の取り組み
一学期	4	今年度の方向性・研究計画・研究内容について「主題」「構想図」「具体的な手立て」「研修計画」	学びのスタイルについて共通理解 対話トレーニング（週１回さわやかタイム）	生活目標（毎月） 授業振り返りシート（毎月末） 生徒指導の４つの視点振り返りシート（毎月末）
	5	授業づくり研修会「１年　算数科」	提案授業	
	6	研究授業「１年　算数科」		家庭学習強化週間
	7	授業づくり研修会「2年・４年　国語科」 研究授業「2年・４年　国語科」 １学期の成果と課題	児童アンケート 「自ら学び、力を付けるあらやの子」アンケート	児童アンケート
	8	授業づくり研修会2学期に向けて		
二学期	9	授業づくり研修会「６年　算数科」 研究授業「６年　算数科」		
	10	授業づくり研修会「３年　算数科」 研究授業「３年　算数科」		
	11	授業づくり研修会「５年　国語科」 研究授業「５年　国語科」 授業づくり研修会「級外　　科」		家庭学習強化週間
	12	研究授業「級外　　科」 研究のふり返りについて	児童アンケート 「自ら学び、力を付けるあらやの子」アンケート	児童アンケート
三学期	1	授業参観「あおば１・２」 今年度の成果と課題 研究のまとめ		
	2	今年度の反省	「自ら学び、力を付けるあらやの子」アンケート	家庭学習強化週間
	3	次年度の方向づけ		